

平成31・令和元年度(2019年) 《第9号》

貞香会 会報



2019 TEIKOKAI Annual Report

令和に思う



会長 赤平泰処

平成から令和になり、令和二年、二〇二〇年オリンピック・パラリンピックの年となりました。干支では、庚子（かのえね）十二支の最初の子（ね）で鼠の年にあたります。いろいろな意味で時代の節目を迎えているようで、社会の動きも目まぐるしく、昭和生まれにとってはなかなか辛いものがあります。会員の皆様、お変わりありませんか。平成最後の二〇一九貞香会総合書展、令和になり最初の第五十四回貞香書展も会員の皆様の御協力により盛会裡に終了することができ、心より感謝申し上げます。

六月の貞香書展も、この度五十五回展を迎え、会も創立九十八年となります。もうすぐ百年という記念すべき年を迎えますので、今から万全を期して臨みたいと思います。幸い経験豊富な役員の方々が運営にあたり、新しい企画を検討しているようです。どうぞ御期待ください。

しかし、大事なことは、私達の書に対する自覚であり姿勢です。ぜひとも、一作一作に思いを込めて制作していただきたい

と思います。

時代の流れでしょうか、本会も出品点数が減少して、高齢化問題が取り上げられています。書の良さは解るが、なかなか展覧会出品まで漕ぎ着けるのは至難の業であるなど、事情は多岐にわたっているようです。しかし、自らのやる気が問題なのに、年齢のせいにするのは書の制作者・指導者として情けない気がします。みんな歳はとります。頑張りましょう。

書家で高齢で意気盛んな書を遺した人に文徵明（明・一四七〇～一五五九）がいます。八十歳をすぎたから蠅頭書ようとうしょと称される細字を書き、若い時には千字文一日十本書いたといわれます。黄山谷を勉強して新意を出すなど、年齢とともに輝きを増して書線の美しさは抜群です。自由豁達で明快な書風には自然と頭が下がります。肖あやかりたいものです。氣力の充実が生み出した書といえるでしょう。書は年齢ではないことを思い知らされます。「まだ若いね。技術的にも。」と言われるような書を書きたいものです。

一人一人の書活動の充実が会の大きな力となります。そして、謙虚に自らの書を見つめる眼と、ひたむきに継続、努力することが明日の書を生みます。

「令和の書の一隅に、貞香の書ここにあり」と世に問いかけてみませんか。進取の精神を持って書作に励んだ氣力溢れる作品の発表を期待しております。

今後の貞香会に輝きを



理事長 光谷素仙

今年、「令和」と元号が変わった年に、貞香会理事長を拝命し約一年が経過しますが、責任の重さを痛感しています。

令和元年を振り返って、年二回の書展以外で最も大きな出来事は、赤平泰処会長が毎日書道展で最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞したことであります。祝賀会実行委員会を立ち上げ、多くの皆様のご出席を得て盛會裡に終えることができました。元号が変わった最初の年に、このような盛大な祝賀会を開催できたことは会として喜ばしいことであり、赤平先生に感謝申し上げます。

さて、貞香会は中村素堂先生が創立されて二〇二〇年東京オリンピックの年に創立九十八年、第五十五回記念貞香書展を迎えます。創立百年を間近に控え、素堂先生が提唱された「硬筆の書」「新文人主義」の教えを踏まえ、先生の作品を会員一同再度見直し、今後の貞香会が多くの書道会の中で、より一層の輝きを見せるための進む道を、今一度立ち止まって見直す機会となります。

貞香会の現状を鑑みて以下の努力目標があげられます。

1. 少子高齢化社会においていかに会員の増加を図るか。特に子供・学生をいかに取り組み貞香会への出品を促すか。
2. 会員の基礎力の充実・強化をはかるために、錬成会・合宿の充実、講演会の実施、古典等の勉強会、研究会、書道施設見学等積極的に実施する。
3. 書展（貞香書展、貞香会総合書展）のさらなる充実と挑戦。
4. 積極的な他流試合・毎日書道展、東方書道展等。海外展。

「書には人の心を動かす力がある」

私の書道教室ではその証として、三十年近く一人の患者（入院、外来）さんでも喜んでくださることを主目的に病院で「院内展」を開催しています。これまで多くの患者さんから感謝の言葉をいただいています。そのたびにさらに感動を与える作品作りに努力しなければと思います。

貞香会創立百年という歴史の大きな区切りを目前にして、会員一同一丸となって貞香会の伝統を踏まえつつ、更なる自己研鑽、新しいことへの挑戦、感動を与える作品作りに向かってより一層飛躍するよう盛り上げていきたいと思えます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成三十一(二〇一九)年度 貞香会総会報告

平成三十一年度定期総会は、一月二十三日(水)午後三時から、東京都美術館スタジオにおいて開催されました。総会には顧問の中村素岳先生、荒木大樹先生、参与の大野宜白先生、若井香樹先生、ご臨席のもと、三十一名の出席者で開催となりました。

総会は、鈴木蓮徑理事の司会で進められ、開会のことばを奥山泰嶺副理事長が行い、赤平泰処会長が挨拶をされました。中村素堂先生から受け継いだ伝統だけでは難しくなってきた。「実力・力」というものを身につけ一人一人が優れた作家になること、作品で人が呼べるよう、貞香会の意気を揚げるためにも、本日の総会の議題についてご審議をお願いしたいとの旨を述べられました。

次に、中村青藍先生より理事長退任の挨拶をされ、続いて新理事長に就任した光谷素仙先生より挨拶がありました。

次に、委任状の確認を司会より報告があり、会員数二五一名の内、総会出席者三十一名、委任状提出者一五三名 合計一八四名になり、総会成立と報告がありました。議長には大野宜白参与が選任され議事に入りました。

まず、第一号議案の平成三十年事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の平成三十年度決算報告が後上菁華理事より、その後、会計監査報告が長尾泰邸監事より行われ、一括承認されました。

次に、第三号議案の二〇一九・二〇二〇年度 貞香会役員案及び第四号議案の平成三十一(二〇一九)年度事業計画案が根本事務局より説明され、承認されました。

続いて、第五号議案の二〇一九年度予算案が後上理事より提案され、一括承認されました。

その他の議事については特になく、大野議長より締めかけに拍手をもって、議事が終了したことを宣しました。

最後に、光谷素仙新理事長の閉会のことばで締めくくられ、総会が無事終了しました。

懇親会は、一月二十六日(土)午後五時から、東京都美術館内レストラン『サロン』において開催されました。八十名程の参加者が集い、その席上にて、総合書展で受賞された方々が喜びの声を語るなど、盛会のうち滞りなく終了しました。

【二〇一九・二〇二〇年度役員名】

〔顧問〕 荒木大樹 ☆中村青藍 中村素岳

〔参与〕 大野宜白 ☆後藤鶴台 中谷春徑 晝間欽堂

〔参与〕 松本宜響 室生大韻 八木舜堂 若井香樹

〔参与〕 柏木南城 加茂泰玄 中村大如 中村東泉

〔参与〕 平林大舒 二木秀蔭 山根紅樹

〔会長〕 赤平泰処

〔理事長〕 ☆光谷素仙

〔副理事長〕 奥山泰嶺 ☆坪内雪山

〔理事・事務局長〕 根本泰邸

〔理事〕 飯野彩心 今井泰篁 金子正信 後上菁華

小峰紀州 鈴木蓮徑 高木素近 高橋珠翠

富田青軒 ☆永井静軒 中村香柯 ☆半田桃香

三浦看山

〔監事〕 長尾泰邸 杉戸泰岳

〔評議員〕 ☆秋田谷岱空 ☆飯野柳穂 ☆石原翠山 ☆海野蒼秀

☆加地香泉 ☆末永江春

☆新任



貞香会元理事長の長谷川良昭(号耕心)先生が二〇一九年三月九日に逝去されました。激動の時代にあつて先頭に立つて会を導き、北京展を成功させるなど貞香会の発展に多大な功績を残されました。つっしんでご冥福をお祈り致します。(編集部)

長谷川耕心師 逝く

参与 晝間欽堂

長谷川師は、私たちの年代の人達八木舜堂や室生大韻、中濱碩堂、後藤鶴台氏等にとっては青春のシンボルであり、まぶしい程キラキラと輝くスターであった。著名な社会事業家であつた父の長谷川良信先生に従い、ブラジルに4年間開教師として滞在、昭和36年に帰国して大正大学に入学された。そのとき、私は大学4年で、室生氏等は2年生、新入生として入つた長谷川師は、私より一つ上の20歳であつた。長谷川師は、柔道、空手、合気道とすべての有段者でもあつたので、礼に厚く、年下だが先輩にあたる私達にまことに謙虚であつた。帰国の年、昭和36年茨城の雨引観音に書道部の夏合宿があつた。本堂の前に大きな天水桶があり、よごれた雨水が口切りにたまつていた。長谷川師は、いきなりその中に飛び込み「こりゃー気持ちいいや」と言つた。これが長谷川師の第1印象であり、皆これはただものではないと悟つた。

昭和55年に第1回目の貞香会中国旅行があつた。今とは大分違つて、当時の中国は家も服装も貧しく、日本人を見ると人々が集まつてくる。カメラも珍しいという感じであつた。長谷川師は、ブラジルと同じだといつて懐かしがり御機嫌であつた。そんな中、ある日

ルの前を通りかかると盛装した人々が集まつている。中で結婚式をやつていゝという。長谷川師は、「ちょっとお祝いしましょう」というなり会場の正面から入り、マイクのところにとんどん進んだ。壇に上るといきなりカンツォーネを歌い始めた。何も知らない人々はビックリ。しかしあんまりの度迫力に圧倒され、終わると大きな拍手が起こつた。長谷川師は、皆に手を振りながら満足して会場をあとにした。

展覧会は今でこそ国立新美術館で開催しているが、昭和30年代の貞香書展は、美松画廊やガラスの城画廊で行い、今でいえば小さな個展会場という規模であつた。もつと大きな会場をとることが夢であつた。それが昭和48年に上野の森美術館に移ることが出来た。そして次は都美術館に入りたといふのが次の夢であつた。この皆んなの期待にこたへて大活躍されたのが長谷川師であつた。あらゆるところに手をまわし、昭和51年ついに念願を達成した。この都美術館の実績が今日の国立新美術館への大事な足掛かりとなつた。

昭和57年素堂先生が亡くなると、古澤先生が会長になり、ついで佐藤先生が会長職を廃して新理事長に就任。次いで長谷川師が理事長に推された。多忙を理由に固辞されたが功績と指導力があるといふことで、無理をお願いをした。しかし事前のお話の如く超多忙で任期中1度も理事会に出席することが出来なかつた。そこで、副理事長であつた私は、理事会の前に議題と

とになつた。最後は第1秘書も忙しくなり、第2秘書に結果を知らせるということになつてしまつた。この超多忙さが長谷川師の健康を害したと思われる。

昭和の終わり頃から、長谷川師は作品の傑作を中国に求め、毎年西林昭一先生と中濱碩堂氏を中国に作品集めのため派遣してゐた。かなりの予算で貴重なものを入手出来たと思われる。この頃、私は淑徳短大に奉職していたが授業中に用務員が「学長先生がお呼びです」といふ。何があつたのかと飛んでいくと長谷川師はニコニコして「こんな物が手に入りましたよ」と言つて何点かの軸物を指す。「素晴らしいですねえ、でも今授業中ですから」といふと「イヤ授業はいつでも出来ます」と取り合わない。授業は自習ということにして、2人で作品鑑賞となつてしまつた。この時集めた作品の中の5点が、今年の1月から2月にかけて、上野の国立博物館で開かれた「顔真卿展」のなかで、「書体の変遷」の参考資料として展示された。「淑徳大学書学文化センター」の存在は貴重であり、長谷川師の大きな功績といえる。

私はこれまで会つたことのある人の中で長谷川師ほどのスケールが大きく、実行力があり、何をやつても人並み以上という人物にあつたことがない。人が良くて頼りにされると断りきれないところが玉に傷であつた。

心より惜しい人を失つたと思う。最後に18年間に亘つて誠心誠意看病に当たられた奥様に敬意を表します。

広連社 菅上人 耕心良昭和尚 合掌 (行年八十歳)

『書範』二〇一九年六月号より転載

(行年八十歳)

※長谷川耕心先生遺墨展(会期:二〇二〇年二月十九日(二十六日)、会場:淑徳大学 東京キャンパス四号館(三階))が開催されました。



長谷川耕心先生書
「心永壽 祈」

問題点を電話で連絡し、理事会後は結果を報告してゐた。しかし長谷川師はますます多忙をきわめ、電話口にも出られなくなり、秘書を通して報告するというこ

'19 貞香会総合書展

1月20日～26日
東京都美術館

平成最後の総合書展が開かれた。連日好天に恵まれ、参観者も多数つめかけ、にぎわいを見せた。20日には席上揮毫会が開催され、平澤大廣、倉石芳園、飯野柳和の3氏が迫真の筆さばきを披露した。26日に最終日には館内講堂において授賞式が行われ、一般の部授賞式で挨拶に立った会長の赤平泰処先生は「どの展覧会も減少傾向にある中で、総数が18点も増えたのはすばらしい。夏の貞香会書展にも是非出品して下さい。」と受賞者に語りかけられた。



平澤大廣先生席上揮毫



倉石芳園先生席上揮毫



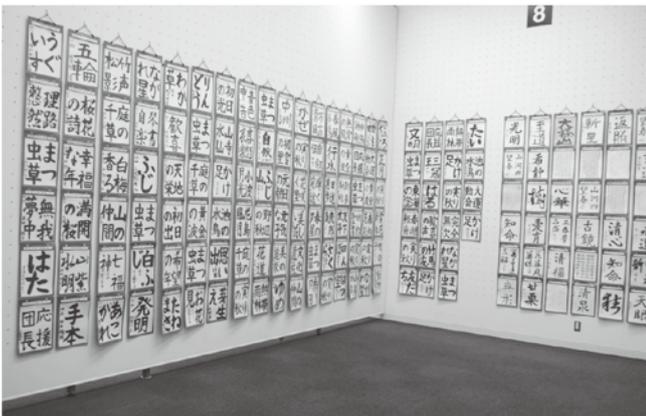
飯野柳和先生席上揮毫



挨拶に立つ赤平会長



教育部授賞式



半紙作品コーナー



一般部授賞式

19 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞

江藤 静蘭

鈴木 彩香

奥村 珠翠

川原 幽香

向後 佳溪

雑賀 誠芳

清水 秀峰

早乙女直美

田村美佐子

西山 尚子

飛田 静風

松島 翠柳

毛利 佳峰

一般部

貞香会奨励賞

上野 梨華

岡 聖紅

峯岸 悦子

書範社賞

高田美佐江

坂本 友香

長瀬 亮一

専心社賞

柿沼 陽和

小林 美子

高木 快道

特選

今井 文子

秀作

池ヶ谷千恵

伊藤 泉映

伊藤 美恵

宇敷 優花

大河内秀丸

大塚那津子

菊地 孝男

黒須万里子

坂本 瑠美

佐藤 史帆

敷樋 華豊

須藤 華剛

早乙女歌歩

曾根 信行

高木美恵子

瀧澤 理子

田畑 華綾

寺田 優己

入選

吉澤 春美

渡邊千恵子

浅野 照雄

天野 素子

荒川 泰生

石川 高子

石田 光子

稲見 尹弘

岩元 鈴音

上原さおり

遠藤 由信

大木 珠芳

加藤 尚武

桃島 来未

久保 龍鳳

小島 美子

齋藤 節子

坂寄 幸枝

教育部

新田 昭雄

野口佐和子

本多登美雄

松沢 栄一

宮村輝陽子

宮本菜緒子

矢代 愛結

山口 秋草

山崎夏樹斗

山本 恵翠

吉岡 紀子

吉田 光陽

若梅 照華

和田由香利

奥備 愛

福田香朱美

上野 優羽

菫葉 香織

特別賞

宮永 柚乃

河野 優奈

早川 美紗

村上 愛瑠

菅谷 和奏

谷田貝美桜

田上 愛瑠

武井 幸子

徳井 真緒

中村 幸史

中谷 直子

南城 秀子

松本 和愛

宮永 柚乃

河野 優奈

早川 美紗

村上 愛瑠

菅谷 和奏

特選

長田 夏美

野間 美羽

荒木優香里

照内 詠子

大越 千慧

安島由莉奈

栗栖ほのか

山崎 百華

菅谷 和希

杉田 悠輔

古関 璃奈

山崎望々春

久米田 芽

小鹿 温菜

石井佳奈芽

秀作

坂本 諒宗

佐々木愛梨

森田 裕子

金子 凌

酒井 優太

和田さくら

藤岡 悠良

大谷 那音

佐藤 悠夏

間宮 一期

山崎 杏凜

石井和香芭

小林 華穂

近藤 美南

富沢 瑠奈

中野 優音

佐藤 初華

金田 愛蘭

佳作

伊藤 太一

桑原 廣雅

山田 陸駆

浅谷 明音

和氣 駿祐

高橋亜羽波

大石 蒼馬

浅井 蒼岳

板子 奏心

間宮 爽介

宮崎 蒼空

西野 智美

山田 美海

坂本 愛心

金野 朱里

片桐 美心

川井 陸人

田上 俊哉

千葉 健斗

福田 蒼空

稲見 星空

森 奏也

伊藤 太一

桑原 廣雅

山田 陸駆

浅谷 明音

和氣 駿祐

高橋亜羽波

大石 蒼馬

浅井 蒼岳

板子 奏心

間宮 爽介

宮崎 蒼空

西野 智美

山田 美海

坂本 愛心

金野 朱里

千葉 健斗

福田 蒼空

稲見 星空

森 奏也

伊藤 太一

桑原 廣雅

山田 陸駆

浅谷 明音

和氣 駿祐

高橋亜羽波

大石 蒼馬

浅井 蒼岳

板子 奏心

間宮 爽介

宮崎 蒼空

西野 智美

山田 美海

坂本 愛心

金野 朱里

'19 貞香会総合書展 選抜大作展

知事斯其以重龍服老蒼并花底眼出湯
三斗朝三進運趨車最運場結女向酒
出方相日負華芳鏡依下長餘吸高向政

筆重極濃賢宗之瀟灑少主譽餘之暇望
其天較如玉於心爲前一最重長齋彌佛
淨法運禪李自斗請高篇去安方上酒家賦

下不呼夏石上船身極是河牛仙張旭三
料聖僧脫唱露頂之高揮一草處紙也煙
遂斗斗卓卓然高談難詰驚世

飯野柳和

尺可昭容女少袖長其
晴步在引朝儀香
於會南主乞之釋色
震于官洪赤福畫滿
稀用高之五初天類
有喜近臣志官中
正生情中志省會送
護龍集寫也

佐藤泰石

花宮心慧達微月隱
高僧鐘漏林下夜

新書日對雲後葉晴
閑下衣類黃法釋書

停已入寒之只靜玲皆
仍隨形而之尤始思

浮生甘位苦何念心
地念何依

平澤大廣

深溪始安行聖心止法顯樹
紆從撥阿過廣經遊行日對
會氣我自捷迅滿轉迴以筆一唇

屬困在烟海莫辨白翫潘水
宿居與雲沙飯已入烟窟注
復原富其銀著卷時件

以之似平一言晚空波漚浩渺
春雲滄歸一卷魚乘多興
多謬修樂人遠

倉石芳園

'19 貞香会総合書展

《ダイジエスト》

◎選抜大作展を併催

2019年度各書展において、輝かしい賞を受賞された方々による選抜大作展を併催した。

〔出品者〕

飯野 柳袖 (第70回毎日書道展 毎日賞)

佐藤 泰石 (第60回東方書展 特別賞・同人推挙)

平澤 大廣 (第53回貞香書展 特別賞・審査会員推挙)

倉石 芳園 (第53回貞香書展 特別賞・審査会員推挙)

◎席上揮毫を開催

展示会場にて、1月20日(日)午後2時より飯野柳袖先生、平澤大廣先生、倉石芳園先生による席上揮毫を開催。多数の観客の前で、それぞれ先生方が筆さばきを披露、最後に解説をされて、皆さんの前で想いを伝えられ、大いに賑わった。



席上揮毫の平澤大廣先生



席上揮毫の倉石芳園先生



席上揮毫の飯野柳袖先生

◎作品解説を実施

1月20日(日)午後4時から、展示場内にて根本事務局司会進行で、大作展出品の先生方による作品解説を行った。

◎懇親会を開催

1月26日(土)午後5時から、美術館内レストラン『サロン』にて懇親会を開催。会員、出品者合わせて80名ほどが参加し、景品が当たるなどに盛り上がった。

2019年度、規定により左記の方が昇格しました。おめでとうございます。

◎委嘱昇格者

江藤 静蘭 池ヶ谷 千恵 川原 幽香 早乙女 直美

◎会友昇格者

上野 梨華 国貞 史絵 林 玉凜

第61回 東方書展

3月25日～31日
東京都美術館

第61回東方書展審査報告

長尾泰 邨

第61回東方書展が3月25日より31日迄、東京都美術館にて開催された。「企画展示」『東方「十一人の書」』として、東方書道院・理事十一人により、一人、十尺×十尺の壁面での作品が発表された。貞香会からは、赤平泰処会長、中村青藍顧問の各先生が作品を発表されました。

貞香会の出品点数は同人54点、準同人9点、公募第一部22点、公募第四部3点、合計89点でした。入賞作品は、準同人より同人推挙に平澤大廣さんが受賞され、一般公募作品からは特選2名、褒状5名の方々が受賞されました。受賞されました皆様、誠におめでとうございました。

貞香会からの審査員は、「特別賞同人推挙選考」に中村素岳先生、赤平泰処先生、「公募第一部」に中村汀華先生、長尾泰邨、「公募第三部」に光谷素仙先生、「公募第四部」に赤平泰処先生が各々担当されました。

担当した「第一部漢字」について述べます。審査は、審査員14人の挙手による鑑別から始まり、上位四割の作品を選出。次に選出された作品を対象に投票による審査が行われ、推薦、特選、褒状の各受賞作品が決定された。審査員が各会派より1名か2名のみのため、より多くの審査員からの賛同を得なければ受賞には届かない。正直、受賞の門はかなり狭いものでした。全体的に、構成がしっかりしていて、練度が高い作品への評価が良かったようです。又、手慣れた作品が多い中、線の強さ、潤滑、緩急等で特に目を引いた作品が選考されたように感じました。

他流試合とも言える公募展ですので、自らの視野を広げる機会です。又出品点数が年毎に減少しているのが現実です。逆に言えば、受賞のチャンスとも言えます。是非次回展には、多くの方が挑戦されます事をお願い申し上げます。

第61回東方書展（優秀作品）

同人推挙 平澤大廣



◎ 第61回東方書展 入賞・入選者

同人推挙 平澤大廣

第一部 特選 新井由香 近藤朗詠

褒状 浦野芽衣 小野淨徑 関根熙雲

中田翠苑

第四部 褒状 江藤静蘭 松田翠心

◎ 昇格者

第61回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人昇格〕 平澤大廣

第61回 東方書展

《ダイジェスト》

◎企画展示「十一人の書」

東方書道院・理事十一人が、一人 十尺×十尺の壁面で作品を披露。
 貞香会では赤平泰処先生（審査員）と中村青藍先生の作品が展示された。



赤平泰処先生



中村青藍先生

◎「同人推挙」受賞作品解説

3月25日(月) 11時より東京都美術館展示場内にて、審査員の先生方による「同人推挙」受賞作品解説が開催された。赤平泰処先生は「特別賞同人推挙」佐藤玉萩さんの作品を「その人の人柄や気品を感じる作品」と笑顔で称え、ご本人の佐藤さんも嬉しそうに、会場は和やかなムードであった。次に谷村雋堂先生より「同人推挙」平澤大廣さんの作品



赤平先生について、「存在感のある作品」と解説があり、続いて大石三世子先生、柳碧蘇先生方より普段聴くことができない貴重な解説を披露していただいた。



作品解説の会場の様子

◎席上揮毫

3月25日(月) 14時より東京都美術館展示場内にて、選抜当番審査員の先生方による席上揮毫が開催された。開始前から大勢のギャラリーが集まり、加藤昌韻事務局長の司会進行で、柳碧蘇理事長の挨拶でスタート。揮毫者が一線一線仕上げるたびに大きな歓声と拍手が湧き、大盛況となった。



席上揮毫の様子

◎企画展示「十一人の書」ギャラリートーク

3月30日(土) 11時より展示会場にて、「十一人の書」の作品解説が開催された。貞香会より赤平泰処先生、中村青藍先生が、自身の作品を前にして解説を行ない、大勢のギャラリーでにぎわった。



赤平泰処先生作品解説



中村青藍先生作品解説

◎授賞式

3月30日(土) 14時30分より美術館講堂にて、授賞式が開催された。

式典後、17時より美術館内レストラン『ミューズ』にて懇親会が行われ、大勢の受賞者を取り囲み、華やかに行われた。



平澤大廣さん受賞



貞香会受賞者の方々

第54回 貞香書展

6月26日～7月8日
国立新美術館

第54回貞香書展審査報告

奥山泰嶺

令和元年、第54回貞香書展が6月26日(水)より7月8日(月)まで六本木の国立新美術館で開催された。運営に携わった実行委員の諸先生方並びに会員の皆様のご協力により無事開催することが出来ました。有り難うございました。

総出品点数は270点。出品点数の内訳は役員・審査会員から77点、審査対象となる会員32点(内新昇格者4点)、委嘱50点(内新昇格者14点)、会友14点、公募第1部25点、公募第2部73点となった。昨年の第53回展からマイナス9点ということになる。

審査は6月16日(日)、国立新美術館地下1階審査室にて午前10時15分より全体会議打ち合わせの後、第1部鑑別、会友作品目通し、第2部鑑別が14名の審査員により行われた。その後、第1部の審査が投票により行われた。

午後からは、第2部の審査が投票により行われた。同点の場合は挙手により再度審査を行い上位入賞作品が決められた。

また、公募審査と平行して、特別賞・審査会員推挙、推薦の選考が3名の選考委員により別室にて行われ、鑑別、審査が行われた。

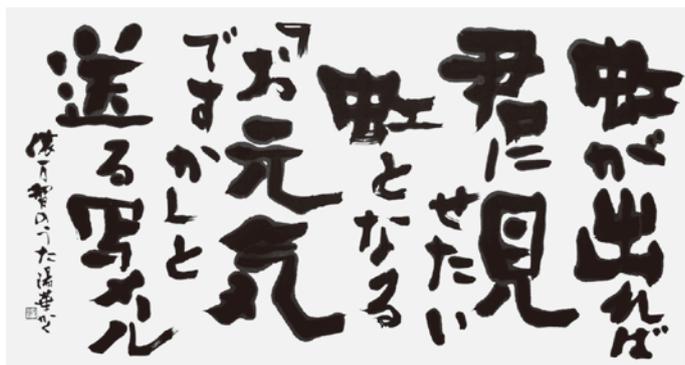
最後に、特別賞・選考委員、公募部門審査員全体会議において選考作品が紹介され満場一致で全ての賞が決定された。

数年前より、複数部門への出品や、高校生枠を設けたり等出品数を増やす為の企画が理事会で検討され実施されてはいるが出品点数の増加にはつながっていない。高齢化などによる、現在の出品者に継続出品していただくことも含めた新たな方策の検討が必要であると思われる。

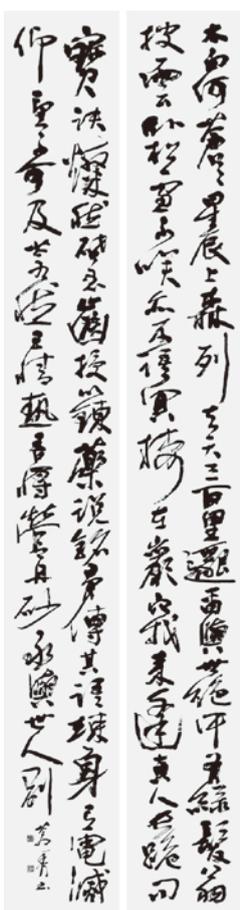
来年はオリンピックイヤー、貞香会節目の第55回記念展となるので、更なる作品力で展覧会を盛り上げていただきたい。皆様お誘い合わせてご出品の程宜しくお願い申し上げます。

第54回 貞香書展 (優秀作品)

特別賞・審査会員推挙 武内陽華



特別賞・審査会員推挙 渡辺蒼秀



The teachings should be taught based on the capacity, the time, and the location. There are various methods for teaching and leading.

奥山泰嶺先生 (本年度審査長)

第54回 貞香書展受賞者

特別賞・審査会員推挙

武内陽華
渡辺蒼秀

公募2部

特選

壺井尚子
曾根信行
酒井貞子
毛利佳峰

後藤久美恵
沢田可祝

推薦・会員推挙

佐藤観雨
大石碧堂
室田彩翠

準特選

榎本良子
星野克美
鈴木彩香
根本悠彩

長田晴海
小泉直子
高田美佐江
加藤絵美子

公募1部

特選

柿沼陽和
今井文子

秀作

中上和美
村山順子
伊藤香風
仲井照子

中村 颯
伊藤美恵
田村美佐子

準特選

松本芳琇
林 玉凜
杉山桃月
峯岸悦子

伊藤香風
仲井照子
本宮俊子
市村星華

鈴木翠鴻
寄山順華

秀作

川本桃子
渡辺蘇心
松野澄水
飛田静風

関 智子
田中峰堂
吉岡紀子
佐藤玄風

吉田幸代
星 文子
渡邊千恵子
田杭敬心

高校生奨励賞

大塚那津子
福田香朱美
滋野綾菜

高校生奨励賞

水上千湖
塩濱花菜
渡邊陽奈

◎昇格者

第54回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔審査会員推挙〕

武内陽華 渡辺蒼秀

〔会員昇格〕

佐藤観雨 関根熙雲 大石碧堂
根本柏暢 室田彩翠

〔委嘱昇格〕

今井文子 柿沼陽和 向後佳溪
飛田静風

〔会友昇格〕

鶴見侑樹 伊藤裕子 塩野貞澄
田村美佐子 山本恵翠

第54回 貞香書展 《ダイジェスト》

54回目の貞香書展が開かれた。出品は委嘱以上の役員159点、公募展第一部39点、第二部73点、役員小品展16点。

会期中の6月29日午前10時半より館内講堂において、東京国立博物館百五十年史編集室長の恵美千鶴子先生をお招きし、「平安時代の書之美」と題する講演会が開かれ、多数の聴講者がおとずれ、熱気に包まれた。翌30日には午前10時半より講堂において席上揮毫会が催され、鈴木蓮徑、中村香柯、坪内雪山の三氏が、それぞれ特色のある筆使いと作品を披露された。又、午後二時より授賞式がとり行われ、大勢の受賞者でにぎわった。挨拶に立った赤平泰処会長は「来年は55回の記念展、又その後貞香会創立100年のふし目を迎える。力強い大きな作品に挑戦して……」と語りかけた。



恵美千鶴子先生講演会



授賞式会場



審査会場風景



鈴木蓮徑先生席上揮毫



坪内雪山先生席上揮毫



中村香柯先生席上揮毫

◎ 役員

(会長・顧問・参与・参事)

小品展併催

展示休憩室に、会長・顧問・参与・参事の先生方による小作品を展示した。それぞれ志向を凝らした葉書作品で、来場者の目を楽しませた。

◎ 講演会を開催

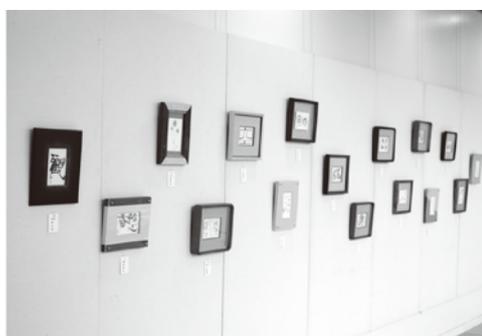
6月29日(土) 午前11時～12時30分、国立新美術館講堂にて、恵美千鶴子先生(東京国立博物館百五十年史編纂室長)に「平安時代の書の美」(空海から行成まで)の演題で講演を賜った。受講者多数で講堂は満員となり、先生の奥深い説明に受講者は真剣な表情で耳を傾け、充実した講演会となった。

◎ 席上揮毫を開催

6月30日(日) 午前11時～12時、国立新美術館講堂にて、鈴木蓮徑先生、中村香柯先生、坪内雪山先生による席上揮毫を開催した。多数の観客の前で見応えのある作品を揮毫された。

◎ 授賞式を開催

6月30日(日) 午後2時～3時、国立新美術館講堂にて、授賞式を開催した。高校生から一般の方まで受賞者が多数出席し、赤平泰処会長、光谷素仙理事長からそれぞれ賞状が授与された。受賞された方々は喜びに満ち溢れていた。



◎ 作品解説を開催

6月30日(日) 午後3時～4時、展示場内で赤平泰処会長による受賞作品の解説を実施した。大勢の来場者が集まり、会長のユーモアたっぷりの解説に会場は大いににぎわった。

特に、第1室に展示された審査会員推挙・特別賞受賞の渡辺蒼秀さんと武内陽華さんの作品について、それぞれの制作にあたっての想いを皆さんの前で披露されていたのが、とても印象深かった。



赤平会長より質問を受ける渡辺蒼秀さん



想いを語る武内陽華さん

◎ 懇親会を開催



三岡昭博様 挨拶

6月30日(日) 午後5時より銀座・サシミ高松において、懇親会を開催。毎日新聞社総務・企画事業部長の三岡昭博様をはじめ、マスコミ各社の方々など多数ご出席され、受賞者喜びのインタビューやくじ引きを行ない、最後は万歳三唱をして、大いに盛り上がった。

第71回 毎日書道展

赤平泰処会長「文部科学大臣賞」受賞

7月10日(水) 東京六本木の国立新美術館で、7月18日(木) 上野の東京都美術館で、日本最大の書の祭典、第71回毎日書道展が開幕した。全部門を対象にした最高賞「文部科学大臣賞」に、貞香会会長・赤平泰処先生の漢字作品「修徳立義」が選ばれた。

7月21日(日) 午後1時より、東京芝公園のザ・プリンスパークタワー東京で2200人を超す関係者が出席し、表彰式が行われた。毎日新聞社の朝比奈豊会長は挨拶で「古典の修練に裏打ちされた、芸術性あふれる書作」と称賛。表彰式では、柴山昌彦文部科学大臣(当時)より賞状が贈られた。表彰式後に執り行われた祝賀会で赤平先生が挨拶され、「大学での授業中に大臣賞の連絡があり、学生からも祝福されました。そしてお世話になった恩師・中村素堂先生の顔が浮かびました。支えてくれた多くの皆さんに感謝したいと思います。」と受賞の喜びを語った。大勢の来賓が集まり、受賞者を祝福、乾杯をあげ、盛大な祝宴となった。貞香会にとっても、歴史に残る輝かしい年となった。



文部科学大臣より表彰



赤平泰処先生作品

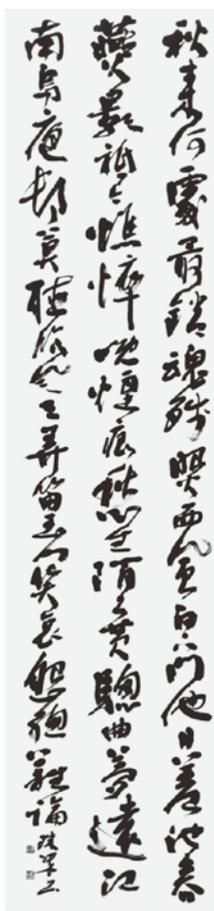
高橋珠翠先生「会員賞」受賞



赤平泰処先生「文部科学大臣賞」受賞の時に、会員賞をいただき喜びと感動でいっぱいです。学生時代よりご指導いただいている赤平泰処先生、貞香会、西蓮会の皆様、また特に今春、三人書展と一緒に開催してくださった鈴木蓮徑さん、飯野彩心さんには心より感謝申し上げます。これからも努力、精進を忘れず書作に励みます。貞香会発展の為に務めてまいります。今後共よろしくお願いいたします。



高橋珠翠先生受賞の様子



高橋珠翠先生作品



祝賀会で挨拶する赤平先生



ダブル受賞で笑顔

第71回 毎日書道展

7月10日～8月4日
国立新美術館
7月18日～25日
東京都美術館

第71回 毎日書道展所感

鈴木蓮徑

第71回毎日書道展は、公募部門と役員作品を合わせて総数出品3万1998点の出品があった。うち会員賞に26人、公募と会友が対象の毎日賞に187人、秀作賞に436人、佳作賞に871人が選ばれた。

最高位の文部科学大臣賞に、貞香会会長の赤平泰処先生の篆書作品「修徳立義」が選ばれた。文部科学大臣賞はなかなか頂ける賞ではなく、ましてや小さな団体でいただくということは大変な名誉で、赤平先生の実力が認められたということであろう。会員賞に理事の高橋珠翠先生が、中村香柯先生に続いて2年ぶりに選ばれた。貞香会でこのような大きな賞の受賞が重なったことは、大変喜ばしく快挙であった。

今年の貞香会の出品点数は会友公募と公募で12点であった。まず、5月には入落の審査があり入選率は42・1%。大変厳しいものであった。そして6月の入賞審査は入落の審査で残った作品と会友の作品がシャッフルされて、厳正な審査が行われた。入落の時は高得点であっても入賞審査では点数が伸びなやんだり、その時の隣り合わせの作品によっても審査委員の先生方の手の上りが変わる。そのような厳しい審査の中で、賞を受賞した方々の作品を観ると、練度が高く安定した作品が受賞している。

全体に、墨量が高くて安定した作品が評価は高い。行草の作品は墨量の潤滑を使い、流れるように作品をまとめていくのも一つの方法でもある。来年度のために、毎日書道展の入賞作品をよく観て傾向と対策を考え、今年よりも更に飛躍した作品が出品できるように研鑽してほしい。また、練成会にも積極的に参加して切磋琢磨していただきたい。

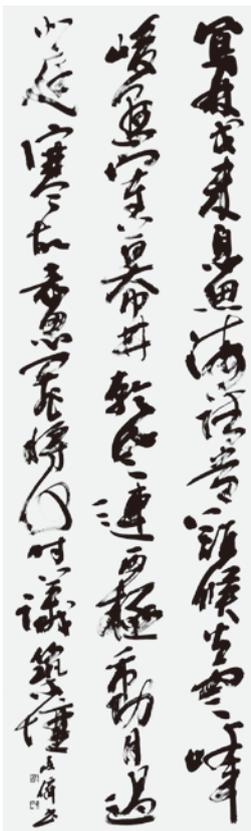
この夏は、令和元年の忘れられない思い出深い毎日書道展であった。



鈴木蓮徑先生作品

第71回 毎日書道展 (優秀作品)

毎日賞 上野泰僊



第71回 毎日書道展 入賞・入選者

(☆印は入賞者)

- 入賞者
 - 文部科学大臣賞 赤平泰処
 - 会員賞 高橋珠翠
 - 毎日賞 上野泰僊
 - 秀作賞 鈴木芳草
 - 光田秀穂
 - 小澤茜逕
 - 武内陽華
 - 富田青軒
 - 平澤大廣
 - 二木秀蔭
 - 和田芳華
 - 柿沼陽和
- 漢字部Ⅰ類入選者
 - 上坂木蘭
 - 大島翠玲
 - 金子多恵子
 - 近藤朗詠
 - 杉山桃月
 - 津村佳園
 - 長瀬亮一
 - 福田麻子
 - 森梅蓉
 - 湯川桃彩
 - 渡辺萌苑
- 漢字部Ⅱ類入選者
 - 荒木憲子
 - 池ヶ谷千恵
 - 池田紀子
 - 大石碧堂
 - 小野浄徑
 - 北野亭弘
 - 塩野洋子
 - 高木春嶺
 - 根布谷翠紅
 - 松下彩虹
 - 横張瑞泉
 - 吉田和蓉
- かな部入選者
 - 及川佩玉
 - 真下良祐
 - 稲葉久枝
 - 稲田珪堂
 - 長尾貫清
 - 上野泰僊
 - 平澤大廣
 - 浦野芽衣
 - 中谷里菜
- 漢字部Ⅰ類U23入選者
 - 伊藤ゆうか
 - 川本桃子
 - ☆柿沼陽和
- 漢字部Ⅱ類U23入選者
 - ☆柿沼陽和

◎昇格者

第71回毎日書道展の受賞および特別選考会において、毎日書道会規定により、次の方が昇格されました。おめでとうございます。

- 〔審査会員昇格〕 高橋珠翠 光谷素仙
- 〔会員昇格〕 加地香泉
- 〔会友昇格〕 篠原翠峰 大石碧堂 大島翠玲 稲田珪堂 小野浄徑 横張瑞泉 津村佳園

※第51回現代女流100人展(日本橋高島屋・2020年4月22日(水)～4月27日(月))に、鈴木蓮徑先生が出品、同展の「現代女流新進作家展」に、審査会員に昇格された高橋珠翠先生が出品します。

※2020年毎日書道展新会員作家展(アトサロン毎日)において、会員に昇格された加地香泉先生が、第2期(2020年3月16日(月)～3月21日(土))に出品します。

◎ 赤平泰処先生毎日書道展文部科学大臣賞・入賞入選者祝賀会

2019年11月17日(日) 午後1時よりホテルグランドアーク半蔵門・富士の間にて、貞香会主催による「赤平泰処毎日書道展文部科学大臣賞・入賞入選者祝賀会」を開催。ご来賓の方々と会員を合わせ、総勢210名が出席され、盛大に祝賀会を行った。光谷素仙理事長の開会の言葉で始まり、毎日新聞社会長・朝比奈豊様、毎日書道会常任顧問・大井錦亭様、毎日書道会理事・石飛博光様、浄土宗宗務役員・杉山俊明様よりご祝辞を賜り、赤平先生は御礼の言葉で「受賞をきっかけにこれからも新たに意欲的に取り組む」と、決意を熱く語られた。そして、毎日書道会専務理事・西村修一様の乾杯で祝宴がスタート。ヴァイオリンとピアノのアンサンブル演奏が祝宴に華を添えてくれた。赤平先生のプロフィールと書の軌跡を4分間の映像にまとめたものを



光谷素仙理事長開会の言葉



朝比奈豊毎日新聞社会長による祝辞



毎日賞受賞した上野泰僊さんによるエール



松本宜響先生よるエールで更に盛り上がる



赤平先生お礼の言葉

映写すると、御来賓の方々が熱心に見入っていた。また、会員賞を受賞した高橋珠翠さんをはじめ、入賞した10名は壇上でそれぞれ師匠・会代表の先生方からお祝の花束が贈られ、たくさん祝福の拍手を浴びて、皆さん笑みがこぼれた。

祝宴の終盤は、貞香会創設者・中村素堂先生が教鞭を執られ、たくさんの方々の門弟を輩出した大正大学関係者が大勢集ったので、関係者全員で肩を組み校歌を熱唱、会場を大いにわかせた。締めは会員によるエールを交わし、更に盛り上がり、来賓の方々から楽しい祝賀会だったとお言葉の数々をいただいた。

二次会は同ホテルの別会場「トパーズ」で行い、カラオケでも盛り上がり、御来賓者と共に楽しい一日を過ごした。

第71回 毎日書道展

《ダイジエスト》

◎ 光谷素仙理事長 審査会員昇格



■ プロフィール

貞香会理事長・審査会員

東方書道会同人

墨光書道会 常任理事・同人

墨仙会・静和会 主宰

昭和大学名誉教授

この度は毎日書道展審査会員への昇格にあたり、恩師・中村素岳先生をはじめ、赤平泰処先生ならびに貞香会の諸先生、諸先輩、会員の皆様のお陰と心からお礼申し上げます。

幼少の時から大好きな「書」の道を、医師として勤務をもちながら現在も絶えることなく約60年続けてきて本当に良かったと思います。今後も毎日書道展審査会員として居住地の横浜で神奈川毎日書道会を起点に、更なる自己研鑽を重ね、貞香会の発展に微力ながら尽力していく覚悟です。



第71回毎日書道展作品

◎ 和光ホール24人展に赤平泰処先生作品展示

和光ホールにて、毎日書道会監事・貞香会会長 赤平泰処先生の作品が展示され、2019年1月9日(木)午後3時より、自身の作品を解説するギャラリートークとサイン会が行われた。大勢の来場者で会場はいっぱいになり、新春の和光ホールが華やいだ。



赤平先生作品解説



サイン会

◎ 第34回毎日現代書「関西代表作家展」に

赤平泰処先生出品

2019年1月10日(木)～15日(火)あべのハルカス近鉄本店ウイング館8階にて、「関西代表作家展」が開催された。関西代表作家の作品と、毎日書道会役員の作品が展示され、毎日書道会監事・貞香会会長の赤平泰処先生の作品が飾られた。新春にふさわしい書芸術作品群が大阪に集った。



赤平泰処先生作品

錬成会

平成31年3月2日(土)、3日(日)の二日間にわたり、南浦和の鷺毛堂錬成会場にて、毎日書道展、貞香書展に向けた日帰り錬成会が開催された。

初日は快晴、朝早くから多くの参加者が集まり、講師の赤平泰処会長、光谷素仙理事長がお見えになり、富田青軒理事の挨拶で開校式が始まった。

赤平先生より「こういった錬成会で鍛錬を積むしかない、一つ一つの鍛錬が上手くなるカギ」と笑顔で皆を鼓舞した。すぐさま参加者は先生方にお手本書きをお願いし、その見事な筆さばきに、一同は真剣な眼差しを向けた。静まり返る会場の中、真剣に取組む姿は熱気に満ちていた。そして終了間際まで黙々と書き続け、参加者の熱い想いが伝わってきた。

翌日はあいにくの雨にも関わらず、参加者がぞくぞくと集まった。講師の中村素岳顧問、赤平泰処会長がお見えになった。午前中は各自で書き込みを行ない、午後4時前に批評会が開かれた。一人ずつ丁寧な講評をいただき、他の作品講評を聞くのも大変勉強になった。二日間共に30名近くが参加し、最後は中村素岳先生、赤平泰処先生のご挨拶で無事に閉会した。

普段見ていただくことのない先生方にご指導をいただくことは大変貴重であり、また紺色の毛氈が一面に広がる会場でのびのび書くことができるのは、とても充実感がある。

錬成とは、辞書によると「心身を鍛え、人間として成長すること」とあり、その境地にはまだまだ至らないが、自己鍛錬の場として錬成会は有意義な機会だと感じた。まだ一度も参加されていない方は、ぜひ来年は一緒に参加しましょう。

(小澤茜選記)



2日目の開始式



初日の開校式



最終日集合写真



錬成会風景

鍊成合宿

東京夢の島公園内にあるBUDOKO東京スポーツ文化館での鍊成合宿は今年で三回目をむかえ、桜の花びらが舞い散る平成31年4月13日(土)、14日(日)の二日間にわたり実施された。

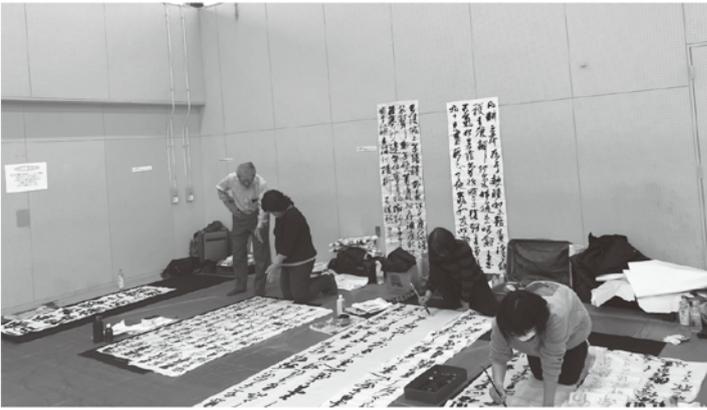
参加者は13日(土)40名、14日(日)20名、今年は高校生の参加もあって、宿泊定員を超えるほど賑やかな合宿となった。

初日、富田青軒理事の司会進行にて開校式が始まり、根本泰邱事務局長の挨拶があり、鍊成会がスタートした。

赤平泰処会長は到着するやいなや、参加者より手本書きを頼まれ、お昼過ぎまで疲れも惜しまず、丹念に書いてくださった。休憩後も赤平先生の添削やご指導は続き、書いていただいた手本を見ながら黙々と筆を走らす



赤平泰処先生添削の様子



中村素岳先生指導の様子



鍊成合宿風景



批評会風景

人や、互いに作品を眺めて意見を交わす人など、笑顔がこぼれ、和気あいあいとした光景であった。

二日目、朝早くから真剣に書き込む参加者の姿で会場はいっぱいとなった。午後から講師の中村素岳顧問、赤平泰処会長がお見えになり、お二人による熱心なご指導が始まった。

午後3時半に批評会が開かれ、一人ずつ懇切丁寧に講評をいただけるのは、次回の作品制作に大変参考になった。

普段独りで書くのとは違い、互いに切磋琢磨し合い、書を書く喜びや楽しさを仲間同士で味わうことができるのが鍊成会の良いところで、今回も有意義な合宿となった。

(小澤茜遥記)

洗碑会



今年も、元号が平成から令和元年になった翌日の五月二日（木）に、小石川傳通院で洗碑会が行われた。今日は、中村素堂先生の百十八回目の誕生日である。

新天皇陛下の御即位をお祝いするために皇居を参拝する人々が、有楽町・銀座など都内を大勢行き来してにぎわっていた。そのような日本がお祝いムードの中、傳通院で行われる素堂先生の記念碑を清める儀式が、いつもは厳かに引き締まった気持ちになるのだが、今年は何故か、素堂先生の御生誕をも人々がお祝いしているようなような気がして、うれしい気分になった。

改めて素堂先生揮毫の「如是我聞」の碑を見た。晴天にめぐまれ、碑にかかる桃の葉が風で揺れて、素堂先生の笑顔が浮かんでくるような気持ちになった。

そうしているうちに、夕刻になり素堂先生のご親族、弟子、孫弟子、大正大学書道研究部の学生、玉川堂の齋藤彰社長や縁由の方々が集つ

てきた。今年も、素堂先生の御嬢様の笠松治子様みちがご参列くださり、出席者おひとりおひとりにご丁寧ていねいに挨拶をされていた。

定刻の十六時半となり、今井泰篁理事の司会進行で、洗碑会が始まった。まずは貞香会代表として赤平泰処会長が挨拶され、親族のご紹介、代表者による記念碑のプレートが浄められた。続いて参列者一同で、菩薩願行文、般若心経をお称えした。最後に、恒例の集合写真を行い、滞りなく終了した。

今年の貞香書展は、第五十四回展。来年は五十五回記念展や、貞香会創立百年を目前に控える。この令和の風に乗って、貞香会の風も書道界に旋風を巻き起こせるか、いや、起こさなければ、と熱い思いが込み上げてきた。最後には、今年も記念碑から素堂先生が檄を飛ばしているような気がして身の引き締まる思いがした。



赤平泰処会長が代表挨拶

〈2019年度事業報告〉

主な展覧会

○'19 貞香会総合書展

会期…2019年1月20日(日)～26日(土)
会場…東京都美術館
席上揮毫…1月20日(日) 14時～15時 展覧会場内
作品解説…1月20日(日) 16時～17時 展覧会場内
授賞式…1月26日(土) 教育部 10時30分～
一般部 12時～ 美術館内講堂
懇親会…1月26日(土) 17時～美術館内レストラン『サロン』

○第61回東方書展

会期…2019年3月25日(月)～3月31日(日)
会場…東京都美術館
☆企画展示 東方「十一人の書」
同人推挙・作品解説…3月25日(月) 11時～

○第54回貞香書展

会期…2019年6月26日(水)～7月8日(月)
会場…国立新美術館3A
講演会…6月29日(土) 11時～12時30分 美術館内講堂
講師…恵美千鶴子先生(東京国立博物館百五十年史編纂室長)
演題…「平安時代の書之美」空海から行成まで」
席上揮毫…6月30日(日) 11時～12時 美術館内講堂
授賞式…6月30日(日) 14時～ 美術館内講堂
作品解説…6月30日(日) 15時～ 展覧会場内
懇親会…6月30日(日) 17時～ サンミ高松銀座7丁目店

○第71回毎日書道展 東京展

会場…国立新美術館
会期…2019年7月10日(水)～8月4日(日)
会場…東京都美術館
会期…2019年7月18日(木)～7月25日(木)

洗碑会

日時…2019年5月2日(木) 16時～
受付 16時30分～
会場…文京区小石川・傳通院 洗碑会

錬成会

○錬成会 (日帰り)

日程…2019年3月2日(土)・3日(日) 9時～17時
会場…鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3
内容…毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

○錬成合宿

日程…2019年4月13日(土)～14日(日) 9時～17時
会場…BumB東京スポーツ文化館・江東区夢の島2・1・3
内容…毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作および下見会

貞香会後援の展覧会

○和墨第12回書道展 ～小品の書～

会期…2019年3月28日(木)～31日(日)
会場…香取市佐原中央公民館1階ホール

○高橋珠翠・鈴木蓮徑・飯野彩心 三人書展

会期…2019年4月30日(火)～5月5日(日)
会場…銀座大黒屋ギャラリー7階
～今、向き合う書～

○第50回記念墨光書展

会期…2019年10月8日(水)～13日(日)
会場…東京銀座画廊8階

○第33回西蓮会書展

会期…2019年10月11日(金)～15日(火)
会場…銀座かねまつホール5階

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

〈2020年度行事予定〉

主な展覧会

○'20 貞香会総合書展

会期：2020年1月21日（火）～26日（日）

会場：東京都美術館

授賞式：1月25日（土） 教育部 11時～

一般部 15時～ 美術館講堂

懇親会：1月25日（土） 17時～ 美術館内レストラン「サロ」

席上揮毫：1月26日（日） 11時～12時 展覧会場内

大作展作品解説：1月26日（日） 13時～14時 展覧会場内

○第62回東方書展 ※中止となりました。

会期：2020年3月25日（水）～3月31日（火）

会場：東京都美術館

☆企画展示：「東方書道院選抜展」理事十一人・選抜六人

同人推挙・作品解説：3月25日（水） 11時～

席上揮毫：3月25日（水） 14時～

授賞式：3月29日（日） 11時～ 美術館講堂

「東方書道院選抜展」作品解説：3月29日（日） 14時30分～

懇親会：3月29日（日） 17時～ 美術館内レストラン「ミューズ」

東方書道院ホームページ www.tohoshodouin.com

○第55回記念貞香書展

会期：2020年6月24日（水）～7月6日（月）

会場：国立新美術館3A

講演会：6月27日（土） 11時～12時30分 美術館内講堂

講師：六人部克典先生（東京国立博物館 研究員）

演題：「中国書画」レクシヨンの伝統と日本」

席上揮毫

授賞式

作品解説

懇親会

後日お知らせします。

○第72回毎日書道展 東京展

会場：国立新美術館

会期：2020年7月8日（水）

～8月2日（日）

会場：東京都美術館

会期：2020年7月18日（土）

～7月25日（土）

表彰式・祝賀会：

7月19日（日） 13時～

ザ・プリンスタワー東京

※貞香会主催「東方書展・毎日書道展

入賞・入選者のごとく」

7月19日（日） 17時～

浜松町周辺で開催（予定）

※各地方展、巡回展については、毎日

書道会のホームページをご覧ください。

毎日書道会ホームページ

<http://www.mainichishodo.org>

洗碑会

日時：2020年5月2日（土）

16時～ 受付

16時30分～ 洗碑会

会場：文京区小石川・傳通院

錬成会

○錬成会（日帰り） ※中止となりました。

日程：2020年3月7日（土）・8日（日）9時～17時

会場：鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4-27-3

内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

○錬成合宿 ※中止となりました。

日程：2020年4月11日（土） 13時～12日（日） 11時

会場：ホテルあかね

神奈川県定柄下郡湯河原町宮下七〇五

内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

および下見会

貞香会後援の展覧会

○松本宜響書展

会期：2020年2月25日（火）～3月1日（日）

会場：銀座・東京鳩居堂4階画廊

○第3回素心会書展

会期：2020年6月2日（火）～7日（日）

会場：東京銀座画廊8階

○第51回墨光書展

会期：2020年10月14日（水）～18日（日）

会場：春日部市民文化会館

○第34回西蓮会書展

会期：2020年10月9日（金）～13日（火）

会場：銀座かねまつホール5階

○中村大如書展

会期：2020年10月30日（金）～11月3日（火）

会場：銀座かねまつホール5階

〈事務局だより〉

◇年会費について

◎2020年度の年会費は、5月29日（金）までにご納入をお願いします。

◎2019（平成31年・令和元年）度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇第55回記念貞香書展の作品締切

2020年度は、5月22日（金）までに各表具店に作品を搬入してください。締切厳守をお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までFAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さんが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

◆表紙・中村素堂先生作品より

【編集後記】

＊今年度も多くの貞香会の事業にご参加いただきありがとうございます。貞香会会報九号をお届けいたします。会員皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。
〈泰邸〉

＊二〇一九年は、元号が平成から令和に変わり、とても印象に残る年であった。また、台風などの災害にも見舞われた都市も多くあり、自然の驚異を感じた。台風一過の青空のように、二〇二〇年のオリンピックを迎え、書道文化も盛り上げていきたいと思えます。
〈彩心〉

＊書道展会場のイベントや錬成会に参加することで、先生方や同じ目標を持つ皆様と交流出来ることに感謝の気持ちでいっぱいです。新しい歩みが「会報」に掲載されています。新しい時代に向かって皆様と貞香会を創り上げていきたいです。
〈茜逕〉

平成三十一・令和元年度（二〇一九年）

会報（第九号）

発行日 令和二（二〇二〇）年三月二十三日（月）

編集・発行 貞香会

東京都江東区新大橋一五四上二一
根本方

電話〇三（六二八四）〇四六六

印刷・製本 富寿印刷

東京都文京区大塚三三六九

電話〇三（三九四四）一一四一

